

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

※本学は、1学部1学科制のため、同一項目として記載。

養成する人材像

本学は、教育基本法及び学校教育法に従い、福音主義キリスト教の精神に基づく自由かつ敬けんな学風の中で真理を探究するとともに心の教育を実践し、国際的教養豊かな良心的人材を養成することを目的とする。（学則第1条）

建学の精神

神を敬い、人に仕える

ミッション・ステートメント

敬和学園大学は、キリスト教精神に基づく自由かつ敬けんな学風の中でリベラルアーツ教育を行い、グローバルな視点で考え、対話とコミュニケーションとボランティア精神を重んじ、隣人に仕える国際的教養人を育成します。

Keiwa College offers a liberal arts education which is based on Christian ideals. The academic freedom in our educational programs encourages students to have intellectual curiosity, to value the spiritual dimensions of life, to be sensitive to the needs of others and to understand the importance of communication. We endeavor to have our students grow to be citizens with an international outlook who will serve others and become responsible members of the local, as well as global, community.

ヴィジョン

隣人に仕え持続可能な社会を担う良識ある市民を育成し、地域社会と国際社会に貢献する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

敬和学園大学は、建学の精神すなわち「神を敬い、人に仕える」に基づき真理の探究と心の教育を行い、「国際的教養豊かな良心的人材」の育成を教育目標とします。この目標のもと、学士課程教育において以下の能力を身につけ、所定の卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 知識・技能

- 1-1 情報を読み解き、真偽を見分け課題を発見するための知識と技能
- 1-2 専攻分野の専門知識と技能およびグローバルな社会や文化の多様性を理解する力

2. 思考力・判断力・表現力

- 2-1 修得した学識をもとに物事を批判的・分析的に思考し、自らの考えを構築する力
- 2-2 社会課題を理解し、解決しようとする力
- 2-3 自らの考えを明瞭かつ効果的に表現する力

3. 意欲・関心・態度

- 3-1 人間の尊厳と人権を尊重する姿勢
- 3-2 多様な人々との共生を可能にする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする主体的な態度。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

※本学は、1学部1学科制のため、同一項目として記載。

本学における教員養成の目標は、専門知識・技能を獲得しているのみならず、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）で定められている力を併せ持つ教員の養成である。本学では創立来、リベラルアーツ教育を掲げ幅広い学びを推奨し、キリスト教の「隣人を愛する」精神をベースとした「グローバルな視点で考え、対話とコミュニケーションとボランティア精神を重んじ、隣人に仕える国際的教養人を育成」をミッションとして掲げている。また、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）では「グローバルな社会や文化の多様性を理解する力」「社会課題を理解し、解決しようとする力」「人間の尊厳と人権を尊重する姿勢」「多様な人々との共生を可能にする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする主体的な態度」等が定められている。

国際教養学科は学科内に6コース（歴史探究、多文化・思想、キャリア英語、地域経営、国際社会、情報メディア）を設置し、より学生の興味関心にそった自由な組み合わせで幅広くリベラルアーツ的な学びができるよう設計されている。社会的環境変化で地域が抱える課題も、人が抱える課題も複雑化している。このような社会において、ディプロマ・ポリシーで掲げるような「グローバルな社会や文化の多様性を理解する力」「社会課題を理解し、解決しようとする力」「人間の尊厳と人権を尊重する姿勢」「多様な人々との共生を可能にする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする主体的な態度」等はこれからの社会を生きていくうえで、また、地域社会の良き担い手となるために必要とされる力であると考え。このような考えの下、ディプロマ・ポリシーで定められているような力は、将来を担う子どもたちにとっても必要な力であると考え、本学で学び教員となる者は、子ども達に先にあげたような力を実際にみせられ、子ども達の成長を促す良き学びの案内人となりうるのではないかと考えた。

以上の目標を達成するために、教育実習前に学内での学びに加え、2年次には専門演習毎にボランティア活動が実施されており、地域社会の現状や課題を知ること、その課題に対応すべく積極的に関わろうとする意識の涵養を重視している。また、教職課程の学生を対象としたプログラムとして、地域や学校を知る、子どもを知る、企画立案・実施等を通してリーダーシップや責任感についての経験を積むことに重点をおいた取り組みがある。「教育活動アクティブワーク」は、国立青年の家での宿泊体験活動の企画立案から実施・手配等や野外活動の経験を積む。「新発田市立第一中学校インターンシップ」は、1年間を通して実施しており、学校や生徒の状況を知る取り組みである。加えて、「新発田市立外ヶ輪小学校教育体験活動」は、9月と2月に1週間ずつ実施している。これは少子化により年下の兄弟姉妹のいない学生の増加を視野に入れ、中学校入学前までの子どもの発達段階を知り、現在の地域や子ども達が直面する課題を知る機会である。以上のような取り組みで専門知識・技能のみでなくディプロマ・ポリシーが求める力を併せ持つ教員養成ができるよう計画的に実施している。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

国際教養学科

教職課程設置趣旨

（共通部分）

新潟県では、他の都道府県中最多である県立の中等教育学校6校（村上・柏崎翔洋・燕・津南・直江津・佐渡）が設置されている（令和7年度現在）。この点を踏まえ、教職課程履修者の利便性を考慮し、中学校と高等学校の教職員免許状の取得を目指す教職課程を置く。

（高等学校・地歴）

本学科では、歴史探究コースが設置されており、歴史を学び、専門知識に裏付けされた目で過去の経緯から学び現在を理解する力とディプロマ・ポリシーで定める力を併せ持つ教員が、将来の地域社会ひいては国を担う子ども達の教育にあたることでより良き社会の構成員であり、自律的に自らの人生を豊かに生き抜く力を持つ子ども達を育てられるのではないかと考えたため設置した。

（高等学校・公民）

本学科では、国際社会コースと地域経営コースが設けられており、国際社会や地域社会に興味・関心をもち、国際社会・地域社会への深い理解とディプロマ・ポリシーで定める力を併せ持つ教員こそが、将来の地域社会ひいては国を担う子ども達の教育にあたることでより、国際社会・地域社会に目を向け、理解しようとし、地域社会の良き担い手であり自律的に自らの人生を豊かに生き抜く力を持つ子ども達を育てられるのではないかと考えたため設置した。

（中学校・社会科）

本学科では、歴史探究コース、国際社会コース、地域経営コースと社会科系のコースが設けられている。そのため、社会を歴史的経緯からみる、法律や仕組みから考える等異なる視点からの多角的な学びが可能である。社会・地域が抱える課題が複雑化している昨今、本学科での多角的な学びにより獲得した経験とディプロマ・ポリシーで定める力を併せ持つ教員こそが、将来の地域社会ひいては国を担う子ども達の教育にあたることでより新たな地域課題に気づき積極手に関わろうとし、自律的に自らの人生を豊かに生き抜く力を持つ子ども達を育てられるのではないかと考えたため設置した。

（高等学校・英語）

本学科では、本学独自の組織化された英語教育により培われる確かな英語力に加え、自らの興味・関心により学科内で自由に6コースを組み合わせ、幅広い知識の獲得が可能である。少子高齢化が進み、労働人口が減少することによる日本語を母語としない地域住民の増加や海外からの旅行者の増加、複雑化する社会課題等を鑑みれば、確かな英語力のみならず幅広い知識を有する教員の存在が将来的に有益であると考え。そのため、確かな英語力とディプロマ・ポリシーで定める力を併せ持つ教員が、将来の地域社会ひいては国を担う子ども達の教育にあたることでより良き社会の構成員であり、自律的・積極的に地域や社会の課題に取り組み、自らの人生を豊かに生き抜く力を持つ子ども達を育てられるのではないかと考えたため設置するに至った。

（中学校・英語）

高等学校・英語の課程設置趣旨に加え、より早期の学びにおいてさらにこのような力をもつ教員が生徒の学びの案内人を務めることで、より良い効果が見込まれるのではないかと考えたため、設置した。

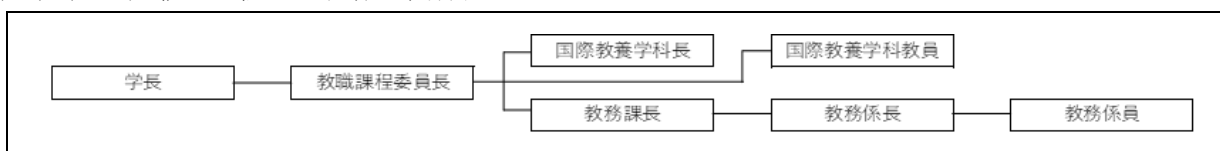
様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職課程委員会
目的：	教職課程の科目等に関する事項、教育実習に関する事項、教育職員免許状の授与申請に関する事項、教職課程履修者の指導に関する事項、教職課程履修細則の改廃に関する事項、委員会の予算に関する事項、その他教職課程に関する事項について審議・管理する。
責任者：	教職課程委員長
構成員(役職・人数)：	教職課程設置の学科長又はそれに代わる者、教職に関する科目担当の専任教員、その他学長が必要と認めた教職員により構成。令和8年度は委員長1名、委員7名の計8名(学長は非構成員)。
運営方法：	<p>委員長は学長が任命する。委員長は、必要に応じて委員会を招集し議長となる。委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。</p> <p>なお、この委員会は次の事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教職課程の科目等に関する事項 (2) 教育実習に関する事項 (3) 教育職員免許状の授与申請に関する事項 (4) 教職課程履修者の指導に関する事項 (5) 教職課程履修細則の改廃に関する事項 (6) 委員会の予算に関する事項 (7) その他教職課程に関する事項

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

新潟県教育委員会教育主事による「介護等体験」「教員採用選考検査」ガイダンスにおける講話、学校教育現場のニーズを把握するための高校教員等の意見交換会等開催、大学長の地元教育委員会委員就任により、教育委員会の意見を反映する等の活動を行う予定である。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	中学校インターンシップ
連携先との調整方法：	4月初旬に連携している中学校校長へ大学の担当者から受け入れを依頼する。内諾をいただいた後、5月中旬に学生の参加者及び配属先を決定し、中学校校長に大学学長より正式に受け入れ依頼を行い、5月下旬より2月中旬まで活動を行う。活動中は各中学校の英語科及び社会科の担当者と大学の担当者間で連絡調整を行う。
具体的な内容：	新潟県新発田市立第一中学校において、中学・高校英語科教職課程2年生、中学社

様式第7号イ

会・高校公民科教職課程3年生の内希望者が、1週間に1回程度、英語あるいは社会の授業補助を行う活動である。参加学生は各回の活動記録を作成し、中間検討会、最終報告会において活動全体に関する省察を行う。活動終了後に活動時間、活動記録、中間報告書、最終レポートについて審査を行い、単位認定（1単位）を行う予定である。

Ⅲ. 教職指導の状況

教職指導は、教職課程委員会及び教職専任教員・教科専任教員が中心となっていく。各学年の開始時に、教職専任教員・教科専任教員が、学年ごとに「教職課程ガイダンス」を実施し、当該学年で履修すべき授業科目等についての履修指導を行う。また、「履修カルテ」を用いて各担当が各学年における学生の履修状況及び学習状況を把握し、個別に指導を行う。「履修カルテ」作成のために、定期的に個人面談を行う。教職課程履修学生の各種相談は、教職課程委員及び教職専任教員・教科専任教員がオフィス・アワー（1週間に90分設けられている）にて行う。各学年における具体的な指導内容は以下の通りである。

1 年次生後期に教職課程の履修を開始する。「教職課程ガイダンス」を実施し、教職課程履修希望者に対して教職課程カリキュラムの概要説明及び履修方法に関する指導を行う。

2 年次生前期は、「教職課程ガイダンス」を実施し、履修指導を行うと同時に、各学生の教職課程履修の意志を確認する。履修希望者は、教職課程履修登録を行う。前期終了時に、教職課程委員会において、2年次生の教職課程履修者の履修状況を確認する。

2 年次生後期は、教職課程履修者に対して、履修状況及び学習状況についての個別面談を行い、「履修カルテ」の記入を行う。介護等体験ガイダンス、教員採用試験ガイダンスを実施する。2年次後期終了時に、教職課程委員会において、各学生の履修状況に基づき「教育実習履修資格確認」を行う。「教育実習履修資格確認」の結果、要件に疑義がある学生については個別に指導を行う。

3 年次前期は、「教職課程ガイダンス」を実施し、履修指導を行う。2年次生における履修状況及び学習状況についての個別面談を行い、「履修カルテ」の記入を行う。インターンシップ希望者に対して、ガイダンスを行い、希望者は新潟県新発田市内の中学校においてインターンシップを実施する（週1回程度。1年間）。前期終了時に、教職課程委員会において、「履修カルテ」に基づき各学生の履修状況を確認する。

3 年次後期は、介護等体験ガイダンス、教員採用試験ガイダンスを実施する。後期終了後に個別面談を行い、履修状況を確認し「履修カルテ」を記入する。教職課程委員会において、「履修カルテ」に基づき、「教育実習履修資格審査」を行う。その結果、要件に疑義がある学生については個別に指導を行う。

4 年次生前期は、「教職課程ガイダンス」を実施し、教育実習及び教員免許申請のための履修指導を行う。教育実習中は教職専任教員・教科専任教員および学科の教員が実習校に赴き、研究授業等の指導を行う。教育実習終了後は教育実習報告会を実施する。4年次生前期終了時に、個別面接を行い、履修状況を確認し「履修カルテ」を記入する。

4 年次生後期は、教職免許一括申請準備及び教職課程総合反省会を行う。また、教育実習後の課題及び教職課程の履修履歴を振り返ることを通して、学生が、教員として必要な資質能力の全体を確認し、自己の課題を自覚したり、不足している知識や技能等を補充・定着するための指導を行う。4年間の総まとめとして、教職実践演習においては、教職に就くための専門性を高める指導を行う。

様式第7号ウ

＜国際教養学科＞（認定課程：中1種免・社会科）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	「政治学1」「経済学1」「社会学1」「国際関係史1」等公民分野の基礎となる科目を履修し、日本社会の全体像を理解する。また「日本史概説」により日本史の全体像を理解し、各時代の特徴を把握する。さらに「考古学1」「科学史1」等で文献による歴史以前の歴史についての研究方法を学び、教科書に書かれている歴史的事実の一つ一つがどのようにして説明されたのかを理解する。 加えて、「日本国憲法1」「哲学1」を履修し、公教育をささえている国のなりたちや人のあり方について理解する等、2年次以降本格化する教職課程の履修に向け下準備をする。
	後期	前期に続き「政治学2」「経済学2」「社会学2」「国際関係史2」で現代日本社会の在り様や世界の中での日本の在り様への理解を深め、公民科における基礎的な専門知識を修得する。前期に続き「考古学2」で考古学を学ぶ意義を理解するとともに、「歴史学」と「科学史2」で歴史学の研究方法を学び、文献史料を読み解くことの意義を理解する。歴史教育では史料の解説が必要であるが、ここではそうした史料の知識と読解力を身につける。また「教職入門」により、教職の意義及び教員の役割、及び、教員の職務内容を理解し、教職を目指す決意を固める。
2年次	前期	「国際政治論1」「国際法1」「地域統合論1」「ヨーロッパ文化論1」「国際経済論1」等、1年次の日本を中心とした学びを基礎とし、世界の中での日本を意識した学びで、幅広く国際関係を視野にいれた専門知識を獲得する。さらに、「経済史1」「マーケティング論1」で世界を視野に入れた、経済活動の基礎的知識を獲得する。「日本近現代史1」で、日本史の中でもウエイトの大きい、近現代史に関する詳細な知識を身につける。さらに、「西洋史概説」「アジア史概説」により世界史への視点を広げて世界史と日本史の時代的な比較をおこなえる知識も身につける。また、「人文地理学」「自然地理学」により地理教育への基本的知識を身につける。この段階で地理歴史科の教職について必要な基本的知識を確立させる。 「教育制度論」において、学校教育制度、教育行政制度、学校経営・学校評価に関わる諸概念、教育にかかわる諸法規の概要を理解する。「総合的な学習の指導法」で、総合的な学習の時間の基本理念や基礎的な専門知識を獲得したうえで、その指導法の基礎的事項について専門知識を獲得する。
	後期	引き続き「国際政治論2」「国際法2」「地域統合論2」「ヨーロッパ文化論2」「国際経済論2」等、1年次の日本を中心とした学びを基礎とし、世界の中での日本を意識した学びで、幅広く国際関係を視野にいれた専門知識を獲得する。さらに、「経済史2」「マーケティング論2」で世界を視野に入れた、経済活動の基礎的知識を獲得する。また、「日本近現代史2」で戦後史までの基本的知識を身につけるとともに、「アジア史」では東アジア世界の歴史、「西洋史」では戦後の冷戦史というように、世界史の分野においても詳細な知識と歴史認識を身につける。さらに「地誌」により地域の歴史、生活、産業への視点を身につける。集団宿泊研修等によって、個別に学習するだけでなく、他者と協調して学び合い、高めあう体験を通して、社会性や対人関係能力を高める。「発達と学習の教育心理学」では、生徒の心身の発達と学習の過程に関わる基礎的な事項について学び教職の教養を培う。「教育原理」において、教育の理念並びに教育に関する歴史と思想を理解し、現代の教育の観点から説明することができる。「特別活動論」では、学生にとってつかみにくい特別活動の基本的な考え方や取り組み等について理解する、

履修年次		到達目標
年次	時期	
3年次	前期	<p>「地球環境経済論1」で1年次・2年次で獲得した現代日本社会や世界の中での日本に関する専門知識を基礎として、今日的・世界的な課題である地球環境に着目し、単一分野ではなく分野横断的な学びを深化させることで、複雑に絡み合う今日的な社会課題に取り組むための手段・方法に関する基礎的な知識を獲得する。地理歴史科の基礎的知識の確認とさらなる専門知識の獲得に努め、専門性を高めるとともに、教職につくため、教育実習に赴く決意を固め、その準備をおこなう。「社会科・公民科教科教育法」を履修し、教育法の専門的な知識を獲得する。教育に重点を置き、教育実習に赴く決意を固め、その準備をおこなう。</p> <p>教育体験活動、中学校でのインターンシップ、ボランティア活動に参加し、積極的に学校現場を知る。「特別支援教育概論」で特別支援教育の基礎・基本を理解し、介護等体験に臨むための基礎を固める。「教育相談」で生徒と向き合い対応するときの基本的な理念と方法を理解する。「カリキュラム論」において、教育課程に関わる理論を習得し、教育課程の意義及び編成の方法を説明することができる。また、「道德教育指導論」で道德授業の基本的な考え方と目標を理解し、指導法の基礎的な理論を理解する。</p>
	後期	<p>さらに「地球環境経済論2」で1年次・2年次で獲得した現代日本社会や世界の中での日本に関する専門知識を基礎として、今日的・世界的な課題である地球環境に着目し、単一分野ではなく分野横断的な学びを深化させることで、複雑に絡み合う今日的な社会課題に取り組むための手段・方法に関する発展的な知識を獲得する。また、実学の教育に重点を置き、教育実習に赴く決意を固め、その準備をおこなう。</p> <p>「社会科・公民科指導法」「社会科・地理歴史科教科教育法」で様々な学習指導にかかわる技術を獲得し、教材を吟味する力を高める。地理歴史・公民科分野の科学的な系統性を確認し、中等教育における一般的内容に漏れがないかを確認する。「生徒・進路指導論」において、生徒指導・進路指導の理論及び方法と基礎的な知識や技術を習得する。ことに中学校段階では、生徒指導の重要性を理解し、傾聴し生徒の考えや心情の理解に努めるとともに考えようとする態度を養う。いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題についての現状を理解する。また、「教育の方法・技術とICTの活用」で教育方法の考え方や種類を学ぶとともに、授業内でのICT活用方法や技術を体得する。</p>
4年次	前期	<p>教員採用試験に合格する学力を強化するとともに、模擬授業を重ねながら、教材研究、指導案作成を実践し、生徒との対話能力も磨き、教育実習に臨む。</p> <p>生徒の反応や学習の定着状況に応じた授業計画や学習形態等を工夫し、教育実習にかかわる各種の事務手続きを滞りなく行う。</p>
	後期	<p>教育実習の反省を踏まえ、教材研究を続けるとともに、卒業論文を作成する。</p> <p>「教職実践演習(中・高)」において、教育実習ノートと教職履修カルテ等から見出された各自の課題を追究し、教育者を志す使命感と規範意識を再検討して、自己の教職への適性を確認する。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<国際教養学科>（認定課程：中一種免（社会））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		日本史概説		日本国憲法1	私たちの暮らしと行政
			社会学1		スポーツ実習1	
			政治学1		情報メディア論	
			哲学1			
	後期	教職入門	歴史学		英語Ⅱ聴く・話す	
			社会学2		日本国憲法2	
			政治学2		スポーツ実習2	
			哲学2			
2年次	前期	教育制度論	アジア史概説	教育活動アクティブワーク		地域学1
		総合的な学習の指導法	西洋史概説			
			国際法1			
			自然地理学			
			人文地理学			
	後期	教育原理	地誌			地域学2
		発達と教育の教育心理学	国際法2			
		特別活動論				
3年次	前期	特別支援教育概論	欧米文化論1			国際社会演習1
		カリキュラム論	地球環境経済論1			
		教育相談	倫理思想史1			
		道徳教育指導論				
		社会科・公民科教科教育法				
	後期	生徒・進路指導論	欧米文化論2			国際社会演習2
		教育の方法・技術とICTの活用	地球環境経済論2			
		社会科・地理歴史科教科教育法	倫理思想史2			
		社会科・公民科指導法				
		教育実習事前事後指導				
4年次	前期	社会科・地理歴史科指導法				国際社会演習3
		教育実習事前事後指導				
		教育実習(中・高)				
	後期	教育実習事前事後指導				国際社会演習4
		教育実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

＜国際教養学科＞(認定課程: 中一種免(英語))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	英語の4技能に関して基礎的なスキルをもち、身近な話題に関して英語を使ったコミュニケーションができる。基本的な英文法と英文法に関する専門用語を理解している。実践的な英語力を養い、TOEIC等の外部試験で自分で立てた目標に向けて自律的な学習を継続できる。 加えて、「日本国憲法1」「哲学1」を履修し、公教育をささえている国のなりたちや人のあり方について理解する等、2年次以降本格化する教職課程の履修に向け下準備をする。
	後期	英語の4技能を向上させ、実際に教室の外で英語でコミュニケーションをとろうとする意欲や異なる文化や社会に関心をもっている。身近な話題に関して英文を読んで理解し、英語を使ってコミュニケーションをとるスキルと意欲をもっている。基本的な英文法と英文法に関する専門用語を理解している。パラグラフ・ライティングの規則を理解し、構成力のあるパラグラフが書ける。TOEIC等の外部試験で自分で立てた目標に向けて自律的な学習を継続できる。 また「教職入門」により、教職の意義及び教員の役割、及び、教員の職務内容を理解し、教職を目指す決意を固める。
2年次	前期	英語の4技能を向上させ、身近な話題だけでなく社会や文化に関してある程度の分量の英文を読解することができ、4パラグラフ程度の構成力のあるエッセイを書くことができる。身近な話題でコミュニケーションをとったり、プレゼンテーションをすることができる。英語学や英語の発音に関する理論や基本的ルールを理解し、英語圏の文学や文化について理解している。 「教育制度論」において、学校教育制度、教育行政制度、学校経営・学校評価に関わる諸概念、教育にかかわる諸法規の概要を理解する。「総合的な学習の指導法」で、総合的な学習の時間の基本理念や基礎的な専門知識を獲得したうえで、その指導法の基礎的事項について専門知識を獲得する。
	後期	英語の4技能を向上させ、身近な話題だけでなく社会や文化に関してある程度の分量の英文を読解することができ、ある程度の長さの構成力のあるエッセイを書くことができる。英語学や英語の発音に関する理論や基本的ルールや言語・非言語を用いたコミュニケーションのあり方を理解し、英語圏の文学や文化について理解している。 集団宿泊研修等によって、個別に学習するだけでなく、他者と協調して学び合い、高めあう体験を通して、社会性や対人関係能力を高める。「発達と学習の教育心理学」では、生徒の心身の発達と学習の過程に関わる基礎的な事項について学び教職の教養を培う。「教育原理」において、教育の理念並びに教育に関する歴史と思想を理解し、現代の教育の観点から説明することができる。「特別活動論」では、学生にとってつかみにくい特別活動の基本的な考え方や取り組み等について理解している。
3年次	前期	英語の技能をさらに向上させ、英語でコンテンツを学ぶ科目により、メディアに使われるニュースの英語を読み解きまとめたり、英語を使って日本の思想や文化を理解し表現することができる。通訳や翻訳に関する基礎的技能を身につけている。国内外の時事や文化に関してプレゼンテーションをしたり、自分の意見を述べるができる。 教育体験活動、中学校でのインターンシップ、ボランティア活動に参加し、積極的に学校現場を知る。「特別支援教育概論」で特別支援教育の基礎・基本を理解し、介護等体験に臨むための基礎を固める。「教育相談」で生徒と向き合い対応するときの基本的な理念と方法を理解する。「カリキュラム論」において、教育課程に関わる理論を習得し、教育課程の意義及び編成の方法を説明することができる。また、「道徳教育指導論」で道徳授業の基本的な考え方や目標を理解し、指導法の基礎的な理論を理解している。
	後期	英語でコンテンツを学ぶ科目により、メディアに使われるニュースの英語を読み解きまとめたり、英語を使って日本の思想や文化を理解し表現することができる。通訳や翻訳に関する基礎的技能を身につけている。国内外の時事や文化に関して英語でプレゼンテーションをしたり、自分の意見を述べるができる。海外で英語でコミュニケーションをとることができる。 「生徒・進路指導論」において、生徒指導・進路指導の理論及び方法と基礎的な知識や技術を習得する。ことに中学校段階では、生徒指導の重要性を理解し、傾聴し生徒の考えや心情の理解に努めるとともに考えようとする態度を養う。いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題についての現状を理解する。また、「教育の方法・技術とICTの活用」で教育方法の考え方や種類を学ぶとともに、授業内でのICT活用方法や技術を体得する。

履修年次		到達目標
年次	時期	
4年次	前期	<p>教員採用試験に合格する学力を強化するとともに、模擬授業を重ねながら、教材研究、指導案作成を実践し、生徒との対話能力も磨き、教育実習に臨む。生徒の反応や学習の定着状況に応じた授業計画や学習形態等を工夫し、教育実習にかかわる各種の事務手続きを滞りなく行う。</p> <p>生徒のモデルとなりうる英語スキルとコミュニケーション能力、多様性を受け入れる人間性を備えている。</p>
	後期	<p>教育実習の反省を踏まえ、教材研究を続け、中学校教諭として必要な知識と技能を向上させる。「教職実践演習(中・高)」において、教育実習ノートと教職履修カルテ等から見出された各自の課題を追究し、教育者を志す使命感と規範意識を再検討して、自己の教職への適性を確認する。教育実習を客観的に振り返り、的確な自己評価をすることができる。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<国際教養学科>（認定課程：中一種免（英語））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期		英文法1		日本国憲法1	英語Ⅰ-読む・書く	
					スポーツ実習1	英語Ⅰ-聴く・話す	
						英語検定準備コース(TOEIC)1	
	後期	教職入門	英文法2		日本国憲法2	英語Ⅱ-読む・書く	
					スポーツ実習2	英語Ⅱ-聴く・話す	
					コンピュータリテラシー	英語検定準備コース(TOEIC)2	
2年次	前期	英語教育学概論	英語学1	教育活動アクティブワーク		英語Ⅲ-読む・書く	
		教育制度論	英語の発音1			英語Ⅲ-聴く・話す	
		総合的な学習の指導法	英語文学1			アメリカ社会と歴史1	
			文学研究1			キャリア英語入門1	
			言語コミュニケーション論1				
			文化交流論1				
	後期		異文化コミュニケーション論1				
		英語教材研究論	英語学2		英語Ⅳ-聴く・話す	英語Ⅳ-読む・書く	
		教育原理	英語の発音2			アメリカ社会と歴史2	
		発達と学習の教育心理学	英語文学2			キャリア英語入門2	
		特別活動論	文学研究2				
			言語コミュニケーション論2				
			文化交流論2				
			異文化コミュニケーション論2				
3年次	前期	英語科教科教育法1	メディア英語1			プレゼンテーションスキルズ1	
		特別支援教育概論				リテラシーとコンピテンシー1	
		カリキュラム論				翻訳1	
		道徳教育指導論				キャリア英語演習1	
		教育相談				欧米文化論1	
	後期					ビジネス英語1	
		英語科教科教育法2	メディア英語2			プレゼンテーションスキルズ2	
		教育の方法・技術とICTの活用				リテラシーとコンピテンシー2	
		生徒・進路指導論				翻訳2	
		教育実習事前事後指導				海外キャリア研修	
						欧米文化論2	
						キャリア英語演習2	
	通年					ビジネス英語2	
	4年次	前期	教育実習事前事後指導				検定試験準備コースⅢ
教育実習						文化・文学特講1	
後期		教職実践演習				キャリア英語演習3	
						文化・文学特講2	
通年						キャリア英語演習4	
					卒業論文		

様式第7号ウ

＜国際教養学科＞（認定課程：高1種免・公民）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	「政治学1」「経済学1」「社会学1」「国際関係史1」等公民分野の基礎となる科目を履修し、日本社会の全体像を理解する。 加えて、「日本国憲法1」「哲学1」を履修し、公教育をささえている国のなりたちや人のあり方について理解する等、2年次以降本格化する教職課程の履修に向け下準備をする。
	後期	前期に続き「政治学2」「経済学2」「社会学2」「国際関係史2」で現代日本社会の在り様や世界の中での日本の在り様への理解を深め、公民科における基礎的な専門知識を修得する。 また「教職入門」により、教職の意義及び教員の役割、及び、教員の職務内容を理解し、教職を目指す決意を固める。
2年次	前期	「国際政治論1」「国際法1」「地域統合論1」「ヨーロッパ文化論1」「国際経済論1」等、1年次の日本を中心とした学びを基礎とし、世界の中での日本を意識した学びで、幅広く国際関係を視野にいれた専門知識を獲得する。さらに、「経済史1」「マーケティング論1」で世界を視野に入れた、経済活動の基礎的な知識を獲得する。 「教育制度論」において、学校教育制度、教育行政制度、学校経営・学校評価に関わる諸概念、教育にかかわる諸法規の概要を理解する。「総合的な学習の指導法」で、総合的な学習の時間の基本理念や基礎的な専門知識を獲得したうえで、その指導法の基礎的な事項について専門知識を獲得する。
	後期	引き続き「国際政治論2」「国際法2」「地域統合論2」「ヨーロッパ文化論2」「国際経済論2」等、1年次の日本を中心とした学びを基礎とし、世界の中での日本を意識した学びで、幅広く国際関係を視野にいれた専門知識を獲得する。さらに、「経済史2」「マーケティング論2」で世界を視野に入れた、経済活動の基礎的な知識を獲得する。 集団宿泊研修等によって、個別に学習するだけでなく、他者と協調して学び合い、高めあう体験を通して、社会性や対人関係能力を高める。「発達と学習の教育心理学」では、生徒の心身の発達と学習の過程に関わる基礎的な事項について学び教職の教養を培う。「教育原理」において、教育の理念並びに教育に関する歴史と思想を理解し、現代の教育の観点から説明することができる。「特別活動論」では、学生にとってつかみにくい特別活動の基本的な考え方や取り組み等について理解する、
3年次	前期	「地球環境経済論1」で1年次・2年次で獲得した現代日本社会や世界の中での日本に関する専門知識を基礎として、今日的・世界的な課題である地球環境に着目し、単一分野ではなく分野横断的な学びを深化させることで、複雑に絡み合う今日的な社会課題に取り組むための手段・方法に関する基礎的な知識を獲得する。「社会科・公民科教科教育法」を履修し、教育法の専門的な知識を獲得する。教育に重点を置き、教育実習に赴く決意を固め、その準備をおこなう。 教育体験活動、中学校でのインターンシップ、ボランティア活動に参加し、積極的に学校現場を知る。「特別支援教育概論」で特別支援教育の基礎・基本を理解し、介護等体験に臨むための基礎を固める。「教育相談」で生徒と向き合い対応するときの基本的な理念と方法を理解する。「カリキュラム論」において、教育課程に関わる理論を習得し、教育課程の意義及び編成の方法を説明することができる。
	後期	さらに「地球環境経済論2」で1年次・2年次で獲得した現代日本社会や世界の中での日本に関する専門知識を基礎として、今日的・世界的な課題である地球環境に着目し、単一分野ではなく分野横断的な学びを深化させることで、複雑に絡み合う今日的な社会課題に取り組むための手段・方法に関する発展的な知識を獲得する。また、実学の教育に重点を置き、教育実習に赴く決意を固め、その準備をおこなう。 「社会科・公民科指導法」で様々な学習指導にかかわる技術を獲得し、教材を吟味する力を高める。公民科分野の科学的な系統性を確認し、中等教育における一般的な内容に漏れがないかを確認する。「生徒・進路指導論」において、生徒指導・進路指導の理論及び方法と基礎的な知識や技術を習得する。「生徒・進路指導論」において、生徒指導・進路指導の理論及び方法と基礎的な知識や技術を習得する。ことに高等学校段階では、進路相談が生徒にとっての将来を左右する大きな選択となるためその重要性を理解し、傾聴しともに考えようとする態度を養う。いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題についての現状を理解する。また、「教育の方法・技術とICTの活用」で教育方法の考え方や種類を学ぶとともに、授業内でのICT活用方法や技術を体得する。

履修年次		到達目標
年次	時期	
4年次	前期	<p>教員採用試験に合格する学力を強化するとともに、模擬授業を重ねながら、教材研究、指導案作成を実践し、生徒との対話能力も磨き、教育実習に臨む。</p> <p>生徒の反応や学習の定着状況に応じた授業計画や学習形態等を工夫し、教育実習にかかわる各種の事務手続きを滞りなく行う。</p>
	後期	<p>教育実習の反省を踏まえ、教材研究を続けるとともに、卒業論文を作成する。</p> <p>「教職実践演習(中・高)」において、教育実習ノートと教職履修カルテ等から見出された各自の課題を追究し、教育者を志す使命感と規範意識を再検討して、自己の教職への適性を確認する。</p>

様式第7号ウ（教諭）

＜学科＞（認定課程：高一種免（公民））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		経済学1		日本国憲法1	私たちの暮らしと行政
			政治学1		コンピュータリテラシー	
			哲学1		スポーツ実習1	
	後期	教職入門	経済学2		日本国憲法2	
			政治学2		スポーツ実習2	
			哲学2		英語Ⅱ 聴く・話す	
2年次	前期	教育制度論	国際政治論1	教育活動アクティブワーク		データサイエンス入門
		総合的な学習の指導法	経済史1			地域学1
			倫理思想史1			
	後期	発達と学習の教育心理学	国際政治論2			自然地理学
		特別活動論	経済史2			地域学2
		教育原理	倫理思想史2			
3年次	前期	特別支援教育概論	国際人権論1			平和学1
		カリキュラム論	地球環境経済論1			国際社会演習1
		教育相談				
				道徳教育指導論		
	後期	社会科・公民科教科教育法				
		教育の方法・技術とICTの活用	国際人権論2			平和学2
		生徒・進路指導論	地球環境経済論2			国際社会演習2
		社会科・公民科指導法				
	教育実習事前事後指導					
4年次	前期	教育実習事前事後指導				国際社会演習3
		教育実習(高)				
	後期	教育実習事前事後指導				国際社会演習4
		教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ

<国際教養学科> (認定課程: 高1種免・地理/歴史)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	「日本史概説」により日本史の全体像を理解し、各時代の特徴を把握する。さらに「考古学1」「科学史1」等で文献による歴史以前の歴史についての研究方法を学び、教科書に書かれている歴史的事実の一つ一つがどのようにして解明されたのかを理解する。 加えて、「日本国憲法1」「哲学1」を履修し、公教育をささえている国のなりたちや人のあり方について理解する等、2年次以降本格化する教職課程の履修に向け下準備をする。
	後期	前期に続き「考古学2」で考古学を学ぶ意義を理解するとともに、「歴史学」と「科学史2」で歴史学の研究方法を学び、文献史料を読み解くことの意義を理解する。歴史教育では史料の解読が必要であるが、ここではそうした史料の知識と読解力を身につける。 また「教職入門」により、教職の意義及び教員の役割、及び、教員の職務内容を理解し、教職を目指す決意を固める。
2年次	前期	「日本近現代史1」で、日本史の中でもウエイトの大きい、近現代史に関する詳細な知識を身につける。さらに、「西洋史概説」「アジア史概説」により世界史への視点を広げて世界史と日本史の時代的な比較をおこなえる知識も身につける。また、「人文地理学」「自然地理学」により地理教育への基本的知識を身につける。この段階で地理歴史科の教職について必要な基本的知識を確立させる。 「教育制度論」において、学校教育制度、教育行政制度、学校経営・学校評価に関わる諸概念、教育にかかわる諸法規の概要を理解する。「総合的な学習の指導法」で、総合的な学習の時間の基本理念や基礎的な専門知識を獲得したうえで、その指導法の基礎的事項について専門知識を獲得する。
	後期	引き続き「日本近現代史2」で戦後史までの基本的知識を身につけるとともに、「アジア史」では東アジア世界の歴史、「西洋史」では戦後の冷戦史というように、世界史の分野においても詳細な知識と歴史認識を身につける。さらに「地誌」により地域の歴史、生活、産業への視点を身につける。 集団宿泊研修等によって、個別に学習するだけでなく、他者と協調して学び合い、高めあう体験を通して、社会性や対人関係能力を高める。「発達と学習の教育心理学」では、生徒の心身の発達と学習の過程に関わる基礎的な事項について学び教職の教養を培う。「教育原理」において、教育の理念並びに教育に関する歴史と思想を理解し、現代の教育の観点から説明することができる。「特別活動論」では、学生にとってつかみにくい特別活動の基本的な考え方や取り組み等について理解する、
3年次	前期	地理歴史科の基礎的知識の確認とさらなる専門知識の獲得に努め、専門性を高めるとともに、教職につくため、教育実習に赴く決意を固め、その準備をおこなう。 教育体験活動、中学校でのインターンシップ、ボランティア活動に参加し、積極的に学校現場を知る。「特別支援教育概論」で特別支援教育の基礎・基本を理解し、介護等体験に臨むための基礎を固める。「教育相談」で生徒と向き合い対応するときの基本的な理念と方法を理解する。「カリキュラム論」において、教育課程に関わる理論を習得し、教育課程の意義及び編成の方法を説明することができる。
	後期	地理歴史科の基礎的知識の確認とさらなる専門知識の獲得に努め、専門性を高めるとともに、教職につくため、教育実習に赴く決意を固め、その準備をおこなう 各種の学習指導にかかわる技術を実践し、教材を吟味する力を高める。地理・歴史の科学的な系統性を確認し、中等教育における一般的な内容に漏れがないかを確認する。「生徒・進路指導論」において、生徒指導・進路指導の理論及び方法と基礎的な知識や技術を習得する。「生徒・進路指導論」において、生徒指導・進路指導の理論及び方法と基礎的な知識や技術を習得する。ことに高等学校段階では、進路相談が生徒にとっての将来を左右する大きな選択となるためその重要性を理解し、傾聴しともに考えようとする態度を養う。いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題についての現状を理解する。また、「教育の方法・技術とICTの活用」で教育方法の考え方や種類を学ぶとともに、授業内でのICT活用方法や技術を体得する。

履修年次		到達目標
年次	時期	
4年次	前期	教員採用試験に合格する学力を強化するとともに、「社会科・地理歴史科指導法」により、模擬授業を重ねながら、教材研究、指導案作成を実践し、生徒との対話能力も磨き、教育実習に臨む。生徒の反応や学習の定着状況に応じた授業計画や学習形態等を工夫し、教育実習にかかわる各種の事務手続きを滞りなく行う。
	後期	教育実習の反省を踏まえ、教材研究を続けるとともに、卒業論文を作成する。「教職実践演習(中・高)」において、教育実習ノートと教職履修カルテ等から見出された各自の課題を追究し、教育者を志す使命感と規範意識を再検討して、自己の教職への適性を確認する。

様式第7号ウ（教諭）

<国際教養学科>（認定課程：高一種免（地理歴史））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		日本史概説		日本国憲法1	社会学1
			考古学1		スポーツ実習1	
			科学史1		ドイツ語1聴く・話す	
	後期				コンピューターリテラシー	
		教職入門	歴史学		日本国憲法2	社会学2
			考古学2		スポーツ実習2	
		科学史2		ドイツ語Ⅱ聴く・話す		
2年次	前期	総合的な学習の指導法	アジア史概説	教育活動アクティブワーク		欧米文化論1
		教育制度論	西洋史概説			
			人文地理学			
	後期	発達と学習の教育心理学	アジア史			欧米文化論2
		教育原理	自然地理学			
		特別活動論	地誌			
		西洋史				
3年次	前期	特別支援教育概論	アジア近現代史1	道徳教育指導論		地球環境経済論1
		教育相談	日本思想史1			
		カリキュラム論	ヨーロッパ思想史1			
	後期	生徒・進路指導論				地球環境経済論2
		教育の方法・技術とICTの活用	アジア近現代史2			
		社会科・地理歴史科教科教育法	日本思想史2			
	教育実習事前事後指導	ヨーロッパ思想史2				
4年次	前期	教育実習(高)				
		教育実習事前事後指導				
		社会科・地理歴史科指導法				
	後期	教職実践演習(中・高)				
		教育実習事前事後指導				

様式第7号ウ

＜国際教養学科＞(認定課程:高一種免(英語))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	英語の4技能に関して基礎的なスキルをもち、身近な話題に関して英語を使ったコミュニケーションができる。基本的な英文法と英文法に関する専門用語を理解している。実践的な英語力を養い、TOEIC等の外部試験で自分で立てた目標に向けて自律的な学習を継続できる。 加えて、「日本国憲法1」「哲学1」を履修し、公教育をささえている国のなりたちや人のあり方について理解する等、2年次以降本格化する教職課程の履修に向け下準備をする。
	後期	英語の4技能を向上させ、実際に教室の外で英語でコミュニケーションをとろうとする意欲や異なる文化や社会に関心をもっている。身近な話題に関して英文を読んで理解し、英語を使ってコミュニケーションをとるスキルと意欲をもっている。基本的な英文法と英文法に関する専門用語を理解している。パラグラフ・ライティングの規則を理解し、構成力のあるパラグラフが書ける。TOEIC等の外部試験で自分で立てた目標に向けて自律的な学習を継続できる。 また「教職入門」により、教職の意義及び教員の役割、及び、教員の職務内容を理解し、教職を目指す決意を固める。
2年次	前期	英語の4技能を向上させ、身近な話題だけでなく社会や文化に関してある程度の分量の英文を読解することができ、4パラグラフ程度の構成力のあるエッセイを書くことができる。身近な話題でコミュニケーションをとったり、プレゼンテーションをすることができる。英語学や英語の発音に関する理論や基本的ルールを理解し、英語圏の文学や文化について理解している。 「教育制度論」において、学校教育制度、教育行政制度、学校経営・学校評価に関わる諸概念、教育にかかわる諸法規の概要を理解する。「総合的な学習の指導法」で、総合的な学習の時間の基本理念や基礎的な専門知識を獲得したうえで、その指導法の基礎的事項について専門知識を獲得する。
	後期	英語の4技能を向上させ、身近な話題だけでなく社会や文化に関してある程度の分量の英文を読解することができ、ある程度の長さの構成力のあるエッセイを書くことができる。国内外の時事や文化に関してプレゼンテーションをすることができる。英語学や英語の発音に関する理論や基本的ルールや言語・非言語を用いたコミュニケーションのあり方を理解し、英語圏の文学や文化について理解している。 集団宿泊研修等によって、個別に学習するだけでなく、他者と協調して学び合い、高めあう体験を通して、社会性や対人関係能力を高める。「発達と学習の教育心理学」では、生徒の心身の発達と学習の過程に関わる基礎的な事項について学び教職の教養を培う。「教育原理」において、教育の理念並びに教育に関する歴史と思想を理解し、現代の教育の観点から説明することができる。「特別活動論」では、学生にとってつかみにくい特別活動の基本的な考え方や取り組み等について理解している。
3年次	前期	英語の技能をさらに向上させ、英語でコンテンツを学ぶ科目により、メディアに使われるニュースの英語を読み解きまとめたり、英語を使って日本の思想や文化を理解し表現することができる。通訳や翻訳に関する基礎的技能を身につけている。世界の時事的な問題や文化について英語で理解したり、自分の意見を述べる事ができる。 教育体験活動、中学校でのインターンシップ、ボランティア活動に参加し、積極的に学校現場を知る。「特別支援教育概論」で特別支援教育の基礎・基本を理解し、介護等体験に臨むための基礎を固める。「教育相談」で生徒と向き合い対応するときの基本的な理念と方法を理解する。「カリキュラム論」において、教育課程に関わる理論を習得し、教育課程の意義及び編成の方法を説明することができる。
	後期	英語でコンテンツを学ぶ科目により、メディアに使われるニュースの英語を読み解きまとめたり、英語を使って日本の思想や文化を理解し表現することができる。通訳や翻訳に関する基礎的技能を身につけている。世界の時事的な問題や文化について英語で理解したり、自分の意見を述べる事ができる。海外で英語でコミュニケーションをとり、違いを受入れることができる。 各種の学習指導にかかわる技術を実践し、教材を吟味する力を高める。「生徒・進路指導論」において、生徒指導・進路指導の理論及び方法と基礎的な知識や技術を習得する。ことに高等学校段階では、進路相談が生徒にとっての将来を左右する大きな選択となるためその重要性を理解し、傾聴しともに考えようとする態度を養う。いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題についての現状を理解する。また、「教育の方法・技術とICTの活用」で教育方法の考え方や種類を学ぶとともに、授業内でのICT活用方法や技術を体得する。
4年次	前期	教員採用試験に合格する学力を強化するとともに、模擬授業を重ねながら、教材研究、指導案作成を実践し、生徒との対話能力も磨き、教育実習に臨む。 生徒の反応や学習の定着状況に応じた授業計画や学習形態等を工夫し、教育実習にかかわる各種の事務手続きを滞りなく行う。生徒のモデルとなりうる英語スキルとコミュニケーション能力、多様性を受け入れる人間性を備え、生徒を理解し、適切な指導をすることができる。
	後期	教育実習の反省を踏まえ、教材研究を続け、中学校教諭として必要な知識と技能を向上させる。「教職実践演習(中・高)」において、教育実習ノートと教職履修カルテ等から見出された各自の課題を追究し、教育者を志す使命感と規範意識を再検討して、自己の教職への適性を確認する。さまざまな個性や特性をそなえた生徒を理解し、必要な指導をすることができる。教育実習を客観的に振り返り、的確な自己評価をすることができる。

様式第7号ウ（教諭）

<国際教養学科>（認定課程：高一種免（英語））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期		英文法1		日本国憲法1	英語Ⅰ-読む・書く	
					スポーツ実習1	英語Ⅰ-聴く・話す	
						英語検定準備コース(TOEIC)1	
	後期	教職入門	英文法2		日本国憲法2	英語Ⅱ-読む・書く	
					スポーツ実習2	英語Ⅱ-聴く・話す	
					コンピュータリテラシー	英語検定準備コース(TOEIC)2	
2年次	前期	英語教育学概論	英語学1	教育活動アクティブワーク		英語Ⅲ-読む・書く	
		教育制度論	英語の発音1			英語Ⅲ-聴く・話す	
		総合的な学習の指導法	英語文学1			アメリカ社会と歴史1	
			文学研究1			キャリア英語入門1	
			言語コミュニケーション論1				
			文化交流論1				
	後期		異文化コミュニケーション論1				
		英語教材研究論	英語学2		英語Ⅳ-聴く・話す	英語Ⅳ-読む・書く	
		教育原理	英語の発音2			アメリカ社会と歴史2	
		発達と学習の教育心理学	英語文学2			キャリア英語入門2	
		特別活動論	文学研究2				
			言語コミュニケーション論2				
3年次	前期	英語科教科教育法1	メディア英語1	道徳教育指導論		プレゼンテーションスキルズ1	
		特別支援教育概論				リテラシーとコンピテンシー1	
		カリキュラム論				翻訳1	
		教育相談				キャリア英語演習1	
						欧米文化論1	
	後期					ビジネス英語1	
		英語科教科教育法2	メディア英語2			プレゼンテーションスキルズ2	
		教育の方法・技術とICTの活用				リテラシーとコンピテンシー2	
		生徒・進路指導論				翻訳2	
		教育実習事前事後指導				海外キャリア研修	
						欧米文化論2	
	通年					キャリア英語演習2	
	4年次	前期					ビジネス英語2
							検定試験準備コースⅢ
後期		教育実習事前事後指導				文化・文学特講1	
		教育実習				キャリア英語演習3	
通年		教職実践演習				文化・文学特講2	
					キャリア英語演習4		
					卒業論文		